上町台地を巡る旅　　[2006 年 11 月 19 日(日)現地見学会報告]

‐‐天王寺七名井を訪れて‐‐

NPO 法人　地盤･地下水環境 NET　　理事　戟　忠希

当日は雨のためキャンセルする人もあり参加者は少なかったが、無事予定通りの行程で現地見学会が行われました。

参加者は JR 天王寺駅北口で集合し2時30分に出発となりました。案内役は当 NPO の柴山元彦理事です。柴山理事は湧き水の研究を長年されており、歴史的なお話も聞くことができ非常に楽しい小旅行でした。

今回の現地見学会の行程は以下のとおりです。

茶臼山･河底池 ⟶　一心寺･本田出雲守（酒封じの神）⟶ かん志づめ水 ⟶ 真田幸村の墓 ⟶ 増井の井戸 ⟶ 玉出の滝 ⟶ 清水坂 ⟶ 土佐清水 ⟶ 大江神社の階段（101段）⟶ 愛染めの霊水 ⟶ 藤原家隆の墓（新古今和歌集の編纂）⟶ 麻田剛立の墓（江戸中期の天文･暦学者）⟶ 口縄坂 ⟶ 細工谷

天王寺七名井

四天王寺の「亀の井」、一心寺付近の「逢坂清水」、「金竜」、「かん志づめ水」、「増井の井戸」、「玉出の滝」、「土佐清水」、

☆かん志づめ水

この井戸は一度干上がっていたものをボランテイアの手で再度復活されたそうです。

名前の由来は幼児期の癇（かん）を鎮めるための効能があったことからということです。

民家に挟まれた狭い場所に位置しているため、標識がないとその存在は分かりづらい。案内役がいないと完全に見過ごすと思います。

上町台地の中腹に位置し、現在は豊富な地下水を湛えた趣のある井戸です。

☆ **天神坂の天王寺7名泉のイメージをあらわす水施設**

水が湧き出し坂を流れる様子を復元している。パックテストで、pH、酸化還元電位を測定したが、水道水とほぼ同じ値であったのでこの施設は地下巣でなく水道水を利用していると思われる。

☆ **増井の井戸**

垣根の奥に井戸がるため、当日は中まで入らずに外から見るにとどめた。この井戸は現在では地表から数 m のところに地下水面が見えますが、戦前は、自噴するくらい豊富な地下水があふれていたそうです。

☆ **玉出の滝**

天王寺七名井のうち唯一の滝の形状を持つめずらしい湧水です。崖の中腹から流れ出る滝はなにか神秘的なものを感じさせます。ここでは湧水をサンプリングしてその化学的な性状を調べてみました。その結果は次のとおりです。

全硬度：150　　Fe：0　　pH：6．8　　酸化還元電位：271

☆土佐清水

昔よくみた井戸の形式です。

水面までは非常に深く少し怖い　感じです。

☆愛染めの霊水

名画愛染かつらの舞台となった所です。ここの霊水の横には大阪で一番古いとされる木造の寺院があります。一本も釘を使用していない建物です。必見の価値がありました。

ここでも霊水の化学的な性状を調べました。その結果は以下のとおりです。

全硬度：75　　Fe：0　　pH：7．2　　酸化還元電位：232